

2024年度 文化学園大学留学生入試1期 試験問題

【問題用紙】

日本語

受験番号					氏名

1 次の文章(新聞記事)を読み、以下の質問に答えなさい。

オンラインでいつでも誰とでもやりとりできる時代。対話型をうたうAIまでどうじょうし、社会のあちこちで対話の必要性が叫ばれる中、哲学者・永井玲衣さんは「私たちは本当に対話できているのか」と問いかける。学校や企業、路上など様々な場所で哲学対話を続けてきた永井さんにとって、「対話」とはどんなものなのか。

——永井さんが開く哲学対話はどんな場ですか。

「どこかで考えたいなと思っていたことや普段当たり前だと思っていることについて、集まった人と一緒に『なんで?』と問い直し、じっくり考えます。場所は選ばず、誰でも参加でき、哲学の知識も必要ありません」

「私は参加者から『問い』を出してもらって、みんなで考えを深めていきます。『正しくないことって悪いことなのかな』とか『向き合うって何だろう』など、確かに言われてみればふしぎな問い、あるいは『【 A 】んだらう』というような、一見雑談のように見えるけれども、実は『なぜ異物を排除したいと思ってしまうのか』という重要なテーマが隠れている問いなどが出てきます」

「哲学対話では約束事をします。『よくきく』『自分の言葉で話す』『〈結局、人それぞれ〉で終わらせない』といったものです。『わからなくなっている』『良いことを言わなくてもいい』場所だと伝えます。それは、私たちが普段とらわれている『大丈夫じゃなさ』の裏返しでもあります。つまり、私たちは、しゃべりすぎているし、急ぎすぎているし、【 B 】、と思っている。ある意味それをひっくり返すのです」

——10年以上続けてきて感じることはありますか。

「分かってきたのは『大丈夫だ』と思える場でなければ私たちは話すこともできない、ということです。話し方やスキルや知識で乗り越えようとしがちだけれど、そうではなく、『大丈夫だと思える場』が育たないと、一緒に悩んで考えるというしぶといことはできないと感じます」

「当たり前ですが、みんなめちゃくちゃ考えているんです。でも、色々な抑圧によって引っ込めさせられていたり、( ア )している。昔の自分もそうでしたが『私が自分の考えなんて言っているんですか』と思っている人たちとともに、ゆっくり言葉を見つけていきたいと思います」

——小学生から社会人まで参加者の背景は多様ですが、なぜ哲学対話にかんしんを持つのでしょうか。  
⑥ c

「初めて参加して『自分はただ誰かと一緒に考えたかったんだと分かった』と話す人がいました。自己肯定感が低いことに悩んで自己啓発本を読み、正解らしきものが( イ )いたけど、どれも納得できなかった、と。一緒に考えたい、悩みたい、そのためのきき合える場がほしい。そんな欲求があるのではないのでしょうか」  
⑦

「始めた頃は『哲学したい』という人が多かった。最近は『対話をしたい』と参加する人が目立つようになり、ケア的な場になることも多い。私は『手のひらサイズの哲学をあなたの言葉で』というやわらかい場所をめざしています。人が怖くて( ウ )けど、ちゃんと話したい、つながりたい、対話をしたい、といったへんかは明確に感じます」  
d

——永井さんが考える対話とはどんなものですか。

「対話って、話すとか語るとか、言葉がポンポン行き交うものだと思われがちですが、『きき合う営み』だと思います。相手の言葉の奥行きと、そこにあるものを確かめていく道のりです。誰かの言葉に耳を澄ますだけでなく、どういうことなんだろう、なぜここで言いよどんだのだろうと、考え確かめていく。どうしてですか、と尋ねる『訊(き)く』もあるはずだし、共に悩むなど時間的なものを共有する営みでもあるはずです。その態度は広い意味で、暴力に抗する営みであると考えています」  
⑧

——コロナ禍でオンライン化が加速しました。対話の形は変わりましたか。  
⑨

「ツイッターや掲示板など、ネット空間で行き交う言葉はとても視覚的です。声をきき合う、体全体を使うような営みとはたいしょう的に、断片がパスパスとすごいスピードでやりとりされていく。奥行きを確かめにくい空間になっていると感じています」  
e

「対話は文脈の共有、振る舞い、言いよどみなど、その場所、体全体で行われるものです。オンラインでは、ほとんど言葉だけでやりとりしなければいけない。手元に手繰り寄せようとしてきたのに、リアルなやりとりが難しくなり、遠くへはね飛ばされてしまったかのような感覚があります」

——「論破」という言葉も飛び交っています。

「論破って、話し合いや議論の手法の一つと捉えられていますが、あれは競争原理の一形態ではないのでしょうか。他者を競争相手、脅威とみなすもので、他者へのまなざしが( エ )とは全く  
⑩ α

異なる。対話は『変わりうる』ことをどこかで握り合っているような時間の中で、実際に相手の言葉によって自分が変わったり、相手がいないと言葉が出てこなかったりする。それが醍醐(だいご)味<sub>β</sub>だと思います」

(中略)

——社会には様々な「分断」があります。それでも対話の場は成立するのでしょうか。

「【 C 】という努力はできると思います。例えば、『国葬に賛成か反対か』ではなく『人を弔うってどういうことなのか』、『保守かリベラルか』ではなく『国を愛するってどういうことなんだろう』という問いから始めてみる。立場が違って、同じ問いを考えることはできる。問いでつながれる、というギリギリの可能性にかけています」

「『問う』って地味に思えて、すごい力を持つものだと信じています。これについて考えたい、分からないから立ち止まりたい、という態度でもあり、『あなたは どう思う？』『あなたが 必要だ』という呼びかけでもある。だから、私たちは問いのもとに集うことができる。問いは、人と人をつなぐものだと思うのです」

((インタビュー)対話、できていますか 哲学者・永井玲衣さん 朝日新聞デジタル(2023.8.11)より。一部を加工して使用)

承諾番号:24-0458

1. 下線 a～e のひらがなを漢字で書きなさい。

2. 下線 ①～⑩ の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

3. 【 A 】～【 C 】に入る最も適切なものを、1・2・3・4 から一つ選びなさい。

A: 1. なんで雑草ってすぐに育つ                      2. なんで雑草って抜いちゃう  
3. なんで子供って言うことを聞かない            4. なんで子供ってすぐに育つ

B: 1. 良いことを言わないといけない              2. 良いことを言わなくてもいい  
3. 人の話をよく聞かないといけない              4. 人の話をよく聞かなくてもいい

C: 1. 相手を論破する                                      2. 『問い』で呼び込む  
3. 自分の考えをはっきりと持つ                      4. 本をたくさん読む

4. (ア)～(エ)に入る最も適切なものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

ア： 1.無視したり 2.無視されたり 3.無視させたり 4.無視させられたり

イ： 1.書いて 2.書かれて 3.書かせて 4.書かされて

ウ： 1.はじまらない 2.終わらない 3.いられない 4.たまらない

エ： 1.対話 2.論破 3.競争 4.視覚

5.下線  $\alpha$  あれは何を指しますか。本文の言葉を使って答えなさい。

6.下線  $\beta$  それは何を指しますか。本文の言葉を使って答えなさい。

7.下線  $\gamma$  『問う』って地味に思えて、すごい力を持つものだと信じていますとありますが、「すごい力」とはどんな力ですか。本文の言葉を使って答えなさい。

8. 次の①～⑤の文を読み、本文の内容に合っているものには○、合っていないものには×を、それぞれ解答欄に書きなさい。

①対話が成り立つためには哲学の知識がどうしても必要になる。

②話し方のスキルや知識があれば、対話を成り立たせることは可能だ。

③対話が成り立つためには、「自分の考えを述べてもいいのだ」と安心できることが必要だ。

④自己肯定感を高めるためには、何冊か自己啓発本を読んで自分なりの正解を見つけるのがいい。

⑤「問う」という行為は、立場が違う人の間でも対話を成り立たせる力を持っている。

2 下線に適切な表現を解答用紙に書きなさい。

① 彼は俳優として活躍するいっぽう、1。

② このお弁当は 300 円にしては2。

③ 科学の進歩にともなって、3。

2024年度 文化学園大学留学生入試1期 試験問題

【解答用紙】

日本語

受験番号					氏名

1 1. a ( ) b ( ) c ( )

d ( ) e ( )

2. ① ( ) ばれる ② ( )

③ ( ) ④ ( ) れて

⑤ ( ) ⑥ ( )

⑦ ( ) ⑧ ( ) み

⑨ ( ) ⑩ ( ) えられて

3. A ( ) B ( ) C ( )

4. ア ( ) イ ( ) ウ ( ) エ ( )

5. ( )

6. ( )

7. ( )

8. ① ( ) ② ( ) ③ ( ) ④ ( ) ⑤ ( )

2

1 . ( )

2 . ( )

3 . ( )